

会長時評

夏のイベント 盛大に開催 若い世代が島に活気を



中学の先生の指導で佐藤会長も孫と初体験（手前のボート）

島の今年の夏は、7月上旬は天候不順でしたがその後もちなおした。帰郷する親子や自然体験型の都会の子供グループが、アームも多数訪れた。私も孫と共に三宅中学校主催のシーカヤックウィーク体験に臨んだ。先生たちが明るく親切にアドバイスしてくれるこのイベントは毎年好評で、今年も島内外から110人が参加した。小・中学校の世代間・地域交流や高校の植林活動参加、三宅島アカコッコ合唱団歌唱指導など各校の先生たちの献身的活躍は郷土愛や島に新たな文化、観光

暑かった今年の夏、三宅島では様々なイベントが開催された。三宅中学校主催のシーカヤック体験や、三宅島大学の連携講座など若い世代も参加して活気のある取り組みが行われている。

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之



墨田区在住アトレウス家
写真：Tomita Ryohei

「ギリシャ悲劇に登場するアトレウス一家がこの土地に住んでいたら？」と想像すること、住まいや暮らしに目をこらしてみようというシリーズです。これまでに墨田区（2010）、豊島区（11）で活動してきました。今回はこの家族が台東区の家から三宅島に移住する設定で公演を行います。山手線と三宅島を重ねた不思議な地図も作りました。

都心にいても島のスケールをイメージできる

『三宅島在住アトレウス家』 6日から9日まで島で公演

を育てる貴重な活動だ。学校発の諸行事が島の活性化に連動・貢献している。期待を込め先生方に感謝します。

8月4日から三宅島大学連続講座。第1回目から三宅支庁長、同総務課長や若手支庁職員も多数参加して「島ばなし」でお勉強と体験、交流など行った。常駐マネージャーに迎えた猪股春香さんが阿古の御蔵島会館

に住み込み活動する。同校を訪れたミクストメディア・プロジェクトの西島慧子さんに、『三宅島在住アトレウス家』三宅島公演の寄稿を依頼。この面に掲載した。など、いろいろな想像がふくらみます。

【三宅島公演】

日時：12年9月6日（木）

～9月9日（日）

案内所・カフェ「691」

チケット・1000円

★お申し込みは電話番号

たHPまで（担当 西島）

☎090 2140 2723

HP: <http://thoa.gr/>

主催：東京都／東京文化

発信プロジェクト

室／一般社団法人

ミクストメディア

・プロジェクト

（西島記）

事務局便り

- 世話人会のお知らせ
9月15日（土）18:30～
巢鴨ルノアールで行います。
- 神楽坂青空フェスタで
三宅島物産店
10月7日（日）
12:00～18:00
くさや、明日葉、里芋を
販売いたします。是非足
をお運びください！
- 事務局長・大石陽子が産
休に入りましたので、事
務局長代行を加藤さおり
が務めます。よろしくお
願い致します。

【三宅島ふるさとネット事務局】

郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：加藤

紹介しますDTPA

ふれあい集会の取材契機に



月に1度の定例会で三宅島新報の編集作業

三宅島新報の編集作業を行っているDTPA (Desk Top Publishing Assistants) は、インターネットの佐藤会長から向上高校の新聞委員が広報紙編集の支援を依頼されたことをきっかけに2005年に発足。現在新報を編集してきたノウハウを生かし、東日本大震災被災地の新聞づくりの支援なども行っている。

向上高校新聞委員会と三宅島の出会いは、2004年に、全島避難中に行われた島民ふれあい集会で、取材を兼ねたボランティア活動をしたことだった。

その際に当時島民連絡会の会長だった佐藤会長と出会い、「帰島後に島

主な活動内容

- ・三宅島新報編集等支援
- ・岩手県宮古市「たろう元気なまちづくりプロジェクト実行委員会」広報紙編集
- ・伊勢原市の知的障がい者通所施設「さくらの家福祉農園」で利用者の壁新聞づくり等の支援
- ・向上学園学園報、向上高校同窓会報編集支援

あおぞら市に橋渡しを

活動7年目 山尾啓予



もつと三宅島のことをたくさん知って

高校卒業後DTPAの一員として活動していた私は、大学3年生のときに、ゼミでお世話になっていた神楽坂商店街の会長さんに、年に2回開かれるあおぞら市に、三宅の物産店を出すことができないかとお話しました。あおぞら市で大島の物産店が開かれていたことと、

もらいたいと思ったのがきっかけです。ふるさとネットの世話人会で出店を提案したところ、やってみようとなり、2007年秋に初出店することができました。今年で出店5年目となりますが、島の方の協力もいただき、明日葉やくさやなどを販売するだけではなく、パネルの展示もして島の現状を伝えるようにしています。これからも創意工夫を続け、みんなで作るイベントとなるよう、努力していきます。

に帰りたくても帰れない人を支援するNPOを立ち上げる予定なので、その広報紙の編集を手伝ってほしい」との依頼を受けた。

これをきっかけに「紙面編集の技術を人のため

岩手の被災地等も支援

新報の第1号が発行されたのは2006年1月1日。その後、新報は、隔月で6年半に渡って発行を重ねている。さらに、DTPAでは新聞の編集だけに限らず、神楽坂商店街のあお

に活用したい」と考えていた当時の取材メンバー等は、紙面編集のお手伝いをするボランティア団体(DTPA)を設立し、新報が発行できる体制を整えた。

このような活動でノウハウを積んだことにより、DTPAは現在、向上高校のある神奈川県伊勢原市の知的障がいがある方の通所施設での壁新聞づくりの手伝い、さらには東日本大震災被災地の岩手県宮古市田老地区の仮設住宅での新聞編集の支援なども行うようになっている。

ぞら市における三宅島物産店をはじめとした様々なイベントで、ふるさとネットの活動のお手伝いをしてきた。

向上高校新聞委員が島で取材 三宅の教訓を東北の被災地へ



櫻田村長（左から3人目）と記念写真



村の観光産業課に取材

向上高校の新聞委員が、10月に発行する同校の学校新聞で、「三宅の噴火災害の教訓を東日本大震災に生かす」という特集の取材のため、8月20日、21日に三宅島を訪れた。一行は佐藤就之とネット会長の協力のもと、高濃度地区やあじさいの里、さらに櫻田昭正村長の取材などを精力的に行った。

今回三宅島を訪れた向上高校新聞委員は3年生4名。20日の朝5時に島に到着後、宿泊場所を提供してくださった佐藤会長宅に向かった。

最初に話を聞いたのは、映画「ロックンロールの島」のモデルとなつた夕景荘の沖山勝彦さん。災害が起きた際のペットへの思いや、どのような対応が必要かなどを取材した。

その後、佐藤会長に三宅の噴火災害に対する対応の問題点や、東日本大震災からの復興に生かせる経験などを取材した。

「まだ終わらぬ」を実感

向上高校 座間由美香



三宅島は、噴火から10年以上たってもまだ高濃度地区が残っていたり、若い世代が戻って来ないために高齢化が進んでいたりしました。私は取材を通じ、三宅島の噴火災害はまだ終わっていないのだと改めて感じました。

これらの原因の一つに、災害が長期に渡ることを予期していなかったため、対応が遅れたことがあるという話を聞き、長期災害を見越した政策づくりが、今必要なのだと思います。

三宅島の経験をどのように東北に生かすことができるのか、難しい問題ですが、私たちも新聞づくりの中で考えていきます。

る経験などを取材した。その中では、個人の住宅への補償ができるようにするための法改正など、復興に長い時間がかかる

高濃度地区やあじさいの里へ

災害への対応を早急に行う必要があるなどの話を聞いた。

午後高濃度地区に関する取材と、高齢化に関する取材を行った。高濃度地区に関しては、坪田高濃度地区に家があった方で、自分の家に帰るのをあきらめた方に取材。全島避難指示解除後、帰れると思っていた家に戻れなかった悔しさや、現在も「避難民」という気持ちでいることなどを聞いた。

高齢化問題に関しては、メンバーの一人が、昨年島を訪れた際に、顔見知りになった高齢者の方をあじさいの里に訪ね

2年ぶりの再会を果たした。また同施設長の水原光夫さんに、若い世代が帰らない中で進む高齢化の現状を取材した。

さらに21日には、三宅村役場を訪問。観光産業課では、噴火後の産業復興の現状を取材するとともに、東北の産業復興に生かせる教訓として基幹産業を整備することの重要性を聞いた。

その後、一行は櫻田昭正村長にも取材。村長から、三宅の島民は全島避難の際には「必ず帰れる」という希望を持っている、という希望を持って頑張ってきたことを聞き、「東北で被災した方々も最後まで希望を持ち続けてほしい」というメッセージをいただいた。

新たな方針の検討へ

訪問活動 ふれあいコール転換期に

動き出した櫻田村政

公約に基づき第一歩を

櫻田新村政が公約に基づき動き出した。その一部を紹介します。

○三宅村人工透析医療導入推進会議発足。6月25日に第一回会議を開催。委員長には、目良純一郎新線池袋クリニック院長が就任し活動。委員は、平松一成患者家族会（切望する会）副会長など10名。

○高濃度地区住民と専門家との懇談会が開かれたが会場の都合を理由に、帰宅者が選別され疑問視されている。実体験者である帰宅者の声を直接反映する努力を望みたい。

○8月10日より坪田高濃度地区を三池・沖ヶ平地区に変更。夜間放送もレベル1、2は午後8時から翌日午前6時まで取りやめと7月31日臨時議会で条例改正。高濃度地区早期解除が待たれる。



ふれあいコールで在京島民の生活状況を確認するふるさとネット会員

方（ふるさと）にふれあいコールを行って、近況や困っていることなどについてお話を伺った。電話では、「相変わらず通院ばかりしている」、「腰痛は少し良くなった」、「腰が、一人で島に行くのは難しい」、「本島と三宅島との行き来となるとたいへんで、精神的に疲れてしまう」といった苦境を訴えるお話が多く聞かれた。その中で、「体力も気力もない中ではあるが、そろそろ島に行こう」と思っているという、島に対する思いを断ち切れない気持ちで話されている。ふれあいコールで在京島民の生活状況を確認するふるさとネット会員

ふるさとネットが行っている在京島民へのふれあいコールでは高齢化の進行にともない苦しい状況が伝えられた。今後、高齢化に対応しふれあいコールや訪問活動をどのように展開するかを検討していきたい。

ふるさとネット事務局では、7月22日に行った訪問活動に向けて、7月21日に、東京都北区桐ヶ丘地区に住む在京島民の

る方もいたことが印象的であった。今回のふれあいコールでは、島に帰りたい思いはあるものの、経済的・精神的・体力的な面から帰島を断念せざるを得ない現状があることを痛感した。また、ふれあいコールは在京島民にとって、普段口に出せない胸の内を語るよい機会になっているように感じた。これからも、このふれあいコールを通じてお話を聞いていくことを大切にしたい。

高齢化で状況が変化

訪問活動では、5件のお宅に伺ったものの、不在だったり予定が合わないかったりしたため、直接お話を伺うことはできなかった。

編集後記

今号では、2面にDTPAの紹介記事を掲載させて頂きました。これまで、多くの時間を三宅島の方々と過ごしたことは、私たちの貴重な経験となつていると改めて感じました。10月に神楽坂で行われるあおぞら市も、みなさんと協力して盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。（DTPA一同）